

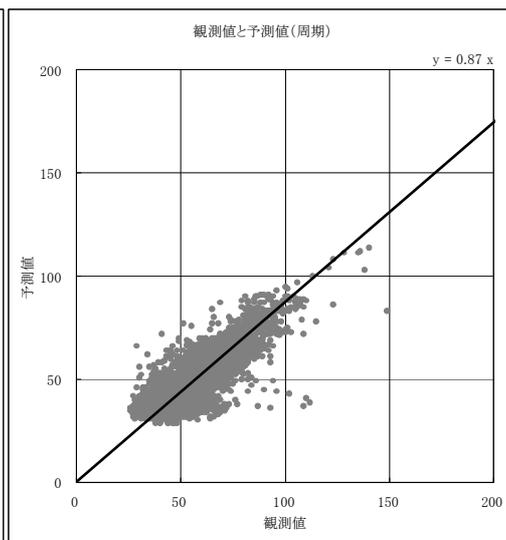
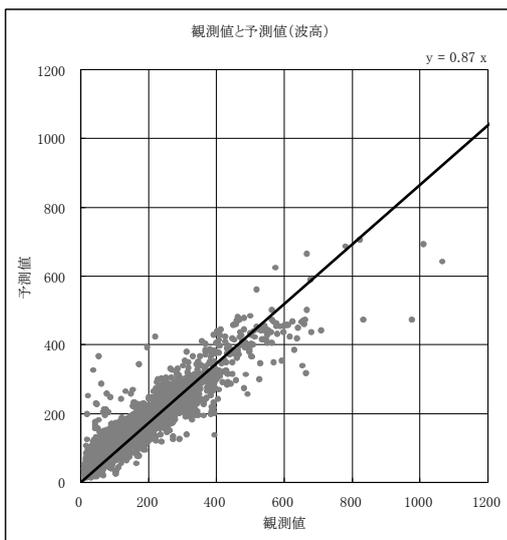
高精度波浪情報について

【 概要 】

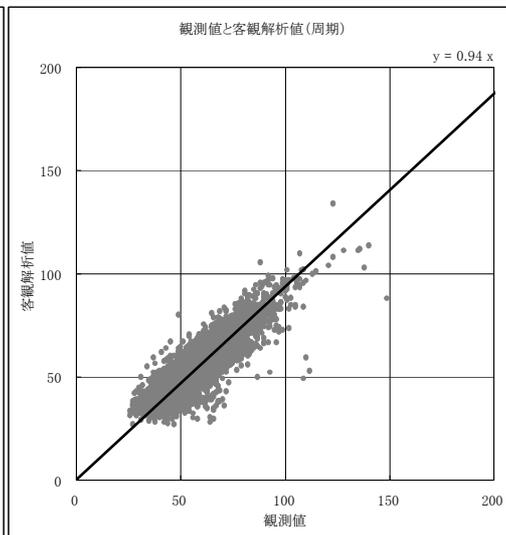
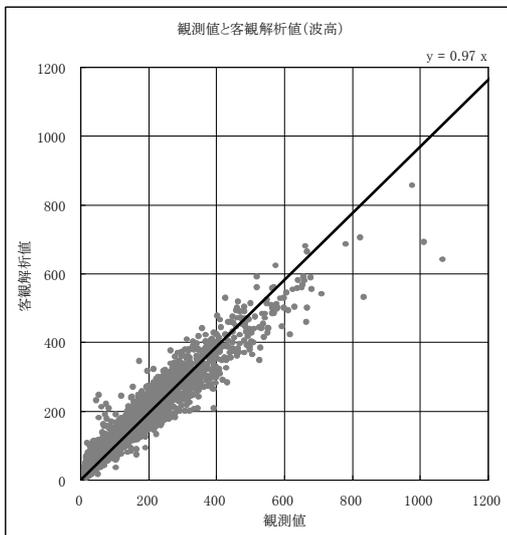
NOWPHASや気象庁の沿岸波浪観測が行われていない任意の地点においても、波浪予測値と波浪実況値の両方を用いて(データ同化手法によって)、準波浪観測情報と言えるほど精度の高い情報(最尤推定値)をご提供できるようになりました。台風等により構造物が被災した後、直ちに高精度な情報提供が可能です。過去データを用いれば、観測値の無い港湾・漁港の静穏度、供用係数等の入力としてもご利用いただけます。

【 特徴 】

- 任意の地点(これまで波浪観測が実施されていない地点においても)情報提供が可能です。準波浪観測情報は、COMEINSにより約3.7km間隔で計算される沿岸波浪予測の結果を、NOWPHASおよび気象庁の沿岸波浪観測実況値を利用して修正しています(データ同化)。
- これまでの波浪推算では実測値と一致しない場合もありましたが、NOWPHAS波浪観測値を利用して、高精度の情報をご提供できます。

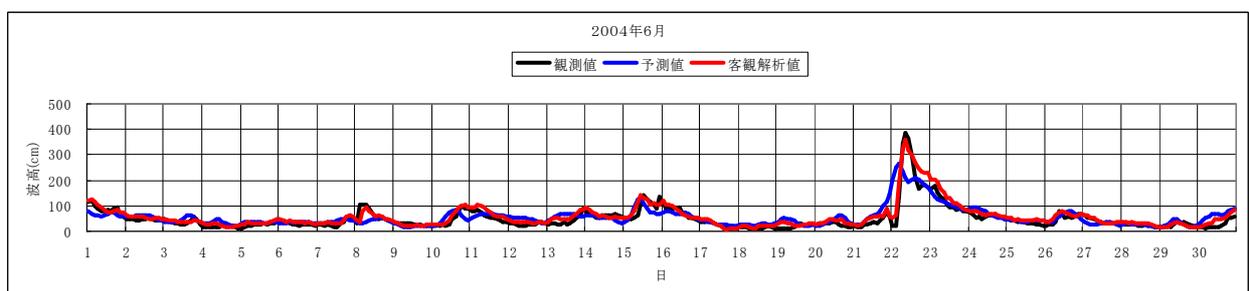
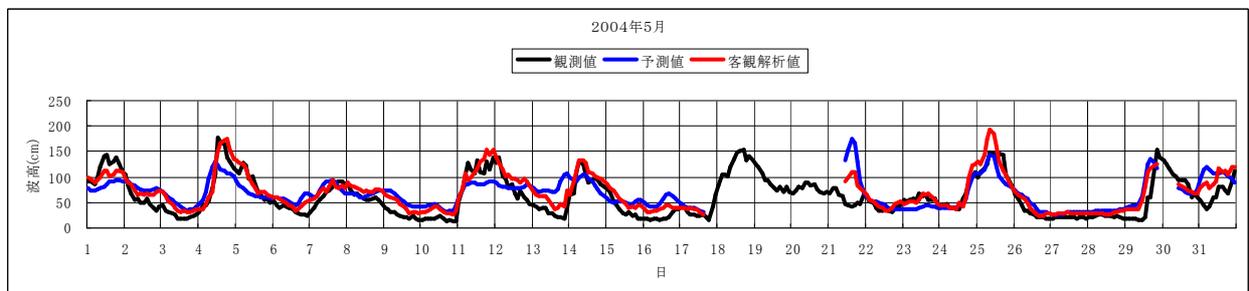
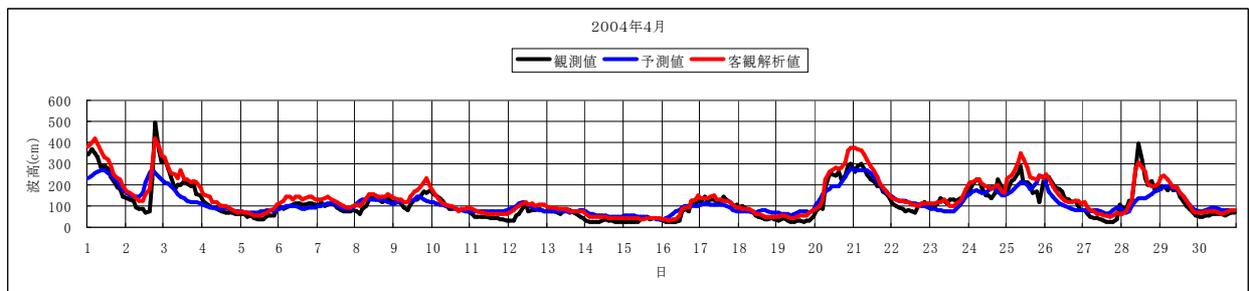
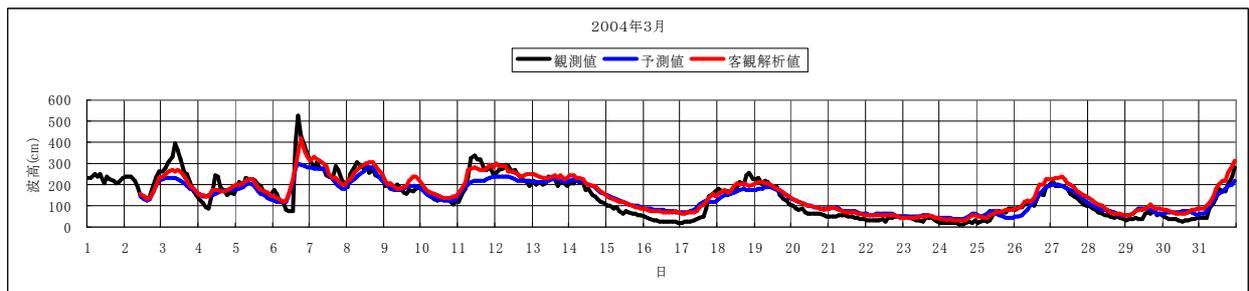
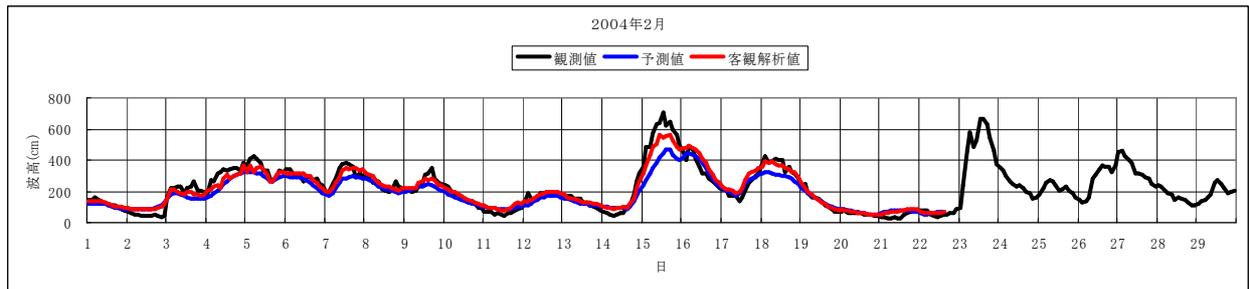
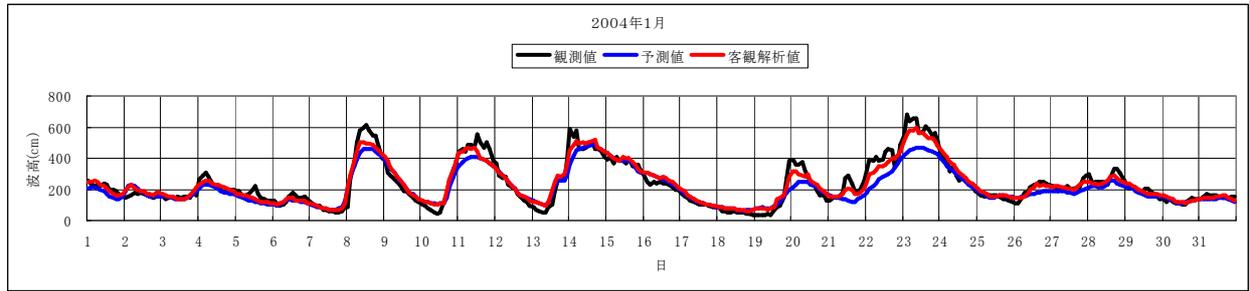


散布図のばらつきはやや大きい
 予測の相関係数は
 波高:0.94
 周期:0.82
 また、回帰係数が1から離れている
 波高: $y=0.87x$
 周期: $y=0.87x$



散布図のばらつきは小さくなり
 準観測の相関係数は
 波高:0.96
 周期:0.86
 また、回帰係数は1に近づいている
 波高: $y=0.97x$
 周期: $y=0.94x$

➤ 図は、2004年1年間の酒田港の観測波高(黒)と予測波高(青)、酒田港の観測値がないと仮定した場合の準波浪観測値(赤)を比較した経時変化です。



➤ 擾乱のピーク時においても、準波浪観測値は、従来の波浪予測と比較して推定精度が向上し、波浪観測データによる修正(データ同化)の効果が現れています。

